

山林経営から製材、プレカットまで
すべてのプロセスに丹精を込める

「二貫生産体制」で

木の家づくりを支える

山長商店

<http://www.yamacho-net.co.jp/>



自社林から製材工場を経て、品質検査がなされた山長商店の乾燥材。JAS認定の刻印が確かな品質を物語る

木と向き合い続けることで その価値を高める

木の家づくりのスタート地点を「山で苗木が植えられた時」だと考えれば、1棟の家が出来上がるまでにいかに長い時間と多くの手間がかけられてきたのかに思いが至る。

国内有数の林業地として知られる紀州・和歌山で古くから自社林を営んできた山長商店は、山林経営から製材、さらにはプレカット加工までを一貫体制で手がける老舗企業。それぞれの工程は、同社の高度な技術による選別作業の繰り返しだ。

山では何度も間伐が重ねられ、良質な木が時間をかけて育てられていく。自然素材である木は、それぞれに個性を有するため、製材時には職人が一本一本の癖を見極めて鋸を入れることにより、初めて安定した品質の製材品が得られる。

プレカット加工も同様だ。無垢材は、誰でも同じように扱える集成材とは異なり、それぞれの個性が生かされるように扱わなければ、木の家づくりに適した材料にはならない。

こうした手間と時間を惜しまず木と向き合う同社の取り組みが、木の価値を高めることにつながっている。

良質な木は 「人為」で得られる

長年にわたり良質な木を生産し続ける山長商店。その原動力について同社副社長の榎本崇秀氏は、「結局、『人為』の積み重ねです」と語る。「山に手をかけているから良質な素材が得られ、木材の性質に精通した職人が扱うから、製材もプレカットも適切に行える。こうした人為によってこそ、木の価値が高まると確信しています」（榎本氏）。

たとえばプレカット加工なら、柱を逆木に使うことなどあり得ないし、横架材なら木の背と腹を見極めて使っている（背は谷側、腹は山側となる。木は山側に反りやすい性質をもつので、梁にする際は背を上向きにして荷重を支える）。見え掛かり部分に材面のきれいな材料を配置して見栄えをよくすることも当たり前に行っている。つまり「番付け」をきっちり行っているのである。また、沸点を下げることでも木の劣化を防ぐ「減圧式乾燥機」を導入していることも、木を知り尽くしたゆえの人為と言えるだろう。

山長商店の木材は、惜しまずにかけてられた手間と時間の産物だ。手塩にかけられたこの材料で木の家をつくる喜びを、ぜひとも建築主と共有したい。